

私は慶應SFCで学んできた情報系・経営系の知識をさらに深め、AIとコーポレートファイナンスを融合した新たな価値創造に携わりたいと考え、保田研究会を志望いたします。特に、研究会が掲げる「ケーススタディや論文輪読を通じた理論と実践の両立」「英語と日本語を活用したグローバルな視点」「コーポレートファイナンスや財務戦略、株式市場にフォーカスする姿勢」は、私のこれまでの学習・経験との相乗効果を生み出せる最適な場だと確信しています。

SFCでは情報系と経営系の授業を組み合わせ、データ分析や統計解析、経営理論を学んできました。その中でも、機械学習を用いた財務戦略の最適化や、投資判断を支援するモデルの可能性に強く魅力を感じ、AI技術を活かしたコーポレートファイナンスの高度化を目指すようになりました。加えて、帰国子女として約10年間海外で生活した経験から、英語文献の読解に抵抗がなく、国際的な視点で企業価値や財務指標を捉えることに強みを持っています。英語と日本語を併用しながら、理論を深く理解し、実践へとつなげる研究会の環境は、私にとって理想的な学びの場であると考えています。

また、サークル活動では会計担当として予実管理・財務諸表(P/LやB/S等)の作成、年度決算業務を担当し、組織運営における財務戦略の重要性を実感しました。特に、限られたリソースを最適に配分するための意思決定や、経済的な視点を持った計画立案の難しさを学ぶ中で、企業財務の意思決定をよりデータドリブンに最適化する手法に関心を持つようになりました。さらに、財務分析の基礎を独学で深めるために、『会計&ファイナンス入門講座』『世界一楽しい決算書の読み方』およびその実践編を読破し、企業の財務状況を定量的に評価するための基礎知識を身につけました。これらの知見を活かし、研究会でのケーススタディや実データの解析にスムーズに取り組める自信があります。

加えて、統計基礎や統計解析の授業を履修し、データの前処理、回帰モデルの構築、評価指標の理解など、研究会で求められる実証分析の基礎をすでに身につけています。これらの経験を踏まえ、研究会内の論文輪読やケーススタディにおいても、データ分析の観点から議論を深めることができると考えています。特に、英語文献の読解に長けているため、海外の研究や最新の論文をスムーズに理解し、議論の発展に貢献できると確信しています。

研究会でのプロジェクト活動においては、AIを活用したコーポレートファイナンスの新たなアプローチを模索し、実社会での適用可能性を検討することを目標としています。具体的には、企業の資本構成や投資戦略を最適化する機械学習モデルの研究や、株式市場の大規模データを活用したリスク評価モデルの開発に取り組みたいと考えています。サークルでの財務管理経験や、統計解析の知識を生かし、データドリブンな財務戦略を支援するモデルの構築に挑戦します。また、DXが進む現代において、企業の財務プロセスを効率化し、意思決定の精度を向上させるためのシステム設計についても研究したいと考えています。

将来的には、コンサルティング業界でDX・AI・コーポレートファイナンスを掛け合わせた経営支援に携わりたいと考えています。企業の財務戦略や組織改革を支援する中で、データ分析やAIを活用した意思決定支援システムの導入を推進し、クライアントの経営課題の解決に貢献したいと考えています。また、グローバルな環境で働くことにも関心があり、海外のクライアントや外資系企業のプロジェクトに携わることで、財務戦略の高度化を支援する専門家として成長したいと考えています。保田研究会での学びを通じて、理論と実践の両面からコーポレートファイナンスを深く理解し、最先端のデータ分析技術を駆使して企業経営の最適化に貢献する力を身につけたいと考えています。

私は、情報系と経営系の学びを基盤に、AIとコーポレートファイナンスを融合させた新しいM&Aのアプローチを探究したいと考え、保田研究会を履修志望する。研究会が掲げる「理論と実践の両立」「グローバルな視点」「コーポレートファイナンスや株式市場へのフォーカス」は、私のこれまでの学習や経験と強く親和性を持ち、相乗効果を生み出せる場だと確信している。

SFCでは、データ分析や統計解析を中心とする情報系の学びと、経営理論や財務分析を扱う経営系の学びを組み合わせしてきた。特に、企業経営の授業におけるJT社員の方によるM&Aに関する講演を通じて、企業戦略におけるM&Aの重要性と複雑性に強い関心を抱いた。そこから、財務理論を土台としながら、AIを活用してM&Aにおける意思決定やデューデリジェンス(DD)、シナジー分析を最適化する可能性を模索したいと考えたようになった。

また、私は帰国子女として約10年間海外で生活した経験から、英語文献の読解に抵抗がなく、国際的な視点で企業価値を捉える力を持っている。保田研究会の論文輪読やケーススタディを通じて、英語と日本語を併用しながら理論を深く理解し、グローバルに応用していける環境は、私にとって理想的な学びの場である。

さらに、サークル活動では会計担当として予算管理や財務諸表の作成、決算業務を担い、組織運営における財務戦略の重要性を実感した。加えて、統計学やデータ分析の授業を通じて、回帰モデル構築や評価指標の理解など、研究会で求められる実証分析の基礎も習得している。これらの経験を活かし、研究会のケーススタディや実データ分析に主体的に取り組める自信がある。

研究会でのプロジェクト活動においては、コーポレートファイナンスの理論を軸に、AIを応用したM&Aの新たな手法を模索したい。具体的には、DDやPMIにおいて人間が介在することで生じるヒューマンエラーやバイアスを低減する仕組みや、マッチング時にAIを活用してシナジー分析を迅速化・最適化するアプローチを検討したいと考えている。

将来的には、金融業界においてM&Aアドバイザーに携わり、AIとコーポレートファイナンスを掛け合わせることで、日本企業の国際的なプレゼンス向上に貢献したい。そのためにまずは保田研究会で、ケーススタディや論文輪読を通じて理論を深く理解し、実証的な分析力を磨くことで、実務に直結する力を養いたいと考えている。